夕刊
磐城新聞
四月七日發行
磐城新聞社
(日曜祭日翌日休刊)

天妃山に遊びて

鈴木艸人

一

過ぐる日曜の一日を私は友人數名と磯原の天妃山に遊んだが、常磐線沿岸の海濱に於ける名勝地として今日世に喧傳されてゐるもののうち、その明麗さに於て或は避暑の意味に於て推賞すべき風景地として、天妃山は世間の共鳴を博し得るであらうと思つた。

天妃山は古へ折藻山と稱し、磯原海岸の白砂の中に嶄然として特立する周圍三丁許りの山で『山と云ふよりも島といふ方が適當であるかも知れない』古い常磐木が密生する中に老松が中空に聳え、山を圍む巨巖には太平洋の波が緩やかに打ち寄せては崩れ落ち、海のあちこちには奇巖怪礁と云つたのが思ひ出したかのやうに種々のポーズをとつて水中からむつくりと頭をもたげて居り、山の西南麓は大北川に接し、海濱に於ける風景地としては如何にも軟かな好風景で、北には二ツ島の奇巖を眺め、南方には我が國に於ける地理學の開祖長久保赤水の英魂を留むる赤濱の白砂に青松を乘せた姿を望み見、西北に連る多賀連山の遠望もまたとなく美しく、いはゞ天妃山は天妃山自身の風景もよいが、それにもまして風景を看る絶好のベンチとでも云ふべき地である

二

天妃山の崖下に『山海館』といふ鑛泉旅館がある。私達はこゝに休んだが、この旅館が私共に最も好感を與へたのは、こうした旅館に通有性な所謂モダンの俗臭味がなくすべてが純朴であることであつた。しかもその位置が非常によく、天妃山を背負つた旅館の前面に際涯なく續いてゐる太平洋が、朝のなごやかな陽の光りを浴びて眞珠のやうに輝いてゐる光景を見たときの氣持は全く清浄そのものであつた。

旅裝を解いた私共は湯ぶねに浸たり四圍の風景美を満喫し、それより階上の座敷に清酌の宴を張つた。俳人安島汀舟氏も來合せ、白砂青松の大風景の中に高談放吟を恣にした。

宿の女中さんが先日ＡＫから放送された野口雨情先生作歌の『磯原小唄』を印刷したものを持つて來て一同に配り

天妃山から、ハ東をネ東を見れば、テモヤレコラサ、見えはしないが、見えたなら、あれはアメリカ、チイト合衆國。

と歌ひ出した。赤ら顔の福島生れだといふこの女中さん盛んに『ほがらか』と云ふ言葉を使ふ、愛嬌のある女で時々お里言葉を出しては一同を笑はせた。

潮聲 第五十二集 (石城撰)

春の海

松並木出つれば春の海光る　華岳
砂踏めば昨日の戀や春の海
砂丘に遊ぶ子等あり春の海　鶴歩
春の海波音もなく明けにけり
沖かゝる船に灯れり春の海　文狂
和やかに波ひかるなり春の海　香雨
春海に渚に乾く寄藻かな　芳月
満ち/\し潮のうねりや春の海　竹羊
春の陽に和める海の眞晝かな　秀勝
糸垂るゝ人並びけり春の海　長貴
春の海暮れなんとして千鳥鳴く　欽一
燈臺の霞に浮きて春の海　敏日子

追章

行交へる船のどかなり春の海　石城

青い灯 (一九)

八幡秋月

返鈴が二階の廊下に響いて、しばらくすぎるとあや子は耕一の部屋に入つて來た

『失禮致しました』

相變らず憂鬱なあや子の顔。

殊更に平氣らしく裝つた耕一はあや子の入つて來るのをチラリと上目にみたき、無言でカップを取り上げた。あや子も其のまゝ坐ると默つて淋しい眸を伏せた。しばらくはどちらも口を開かない

『好かつた、だらう?』

やゝすぎた頃耕一は憎惡に似た眸をあや子に投げて皮肉に言つた

あや子は不快な、まなざしを静かに上げて耕一に注いだかすぐ默つて眸を伏せて仕舞つた。

部屋に重苦しい空氣がただよつた

しばらくすぎてから耕一はまた

『しかし、なア……』

と、ジロリと睨の隅からあや子をみて、つぶやく様に

『可哀相な奴もあるよ』

商ぶる感情を押へてる言葉は、やゝ震を帶びてる様に聞いた

あや子は今度は瞳も動かさない、しかし不快の念は胸に湧き返つてゐた。

やゝすぎると耕一は再び

『折角の氣分を濁して濟まないと想ふよ』

と、口許に醜い歪を造つてチラ"とあや子をみて、すぐ眸を外らした。

續け様に皮肉たつぷりな言葉を聞かされたあや子はソッと眸を上げた冷め度い眸には明らかに不快の色がみへた、そしてジッと耕一の横顔の邊りを見つめてゐたが

『變な事ばかり、仰言るのね』

靜かな、しかし冷やかな何調だ

耕一は外らしてた眸を一寸あや子に移したが、あや子の瞳とカチ合ふと慌てゝ元に戻して仕舞つた。

『ア、少々變かも知れないよ』

『變だわ』

『兎に角、狂人になつて往來を彷徨しないのが、みつけるのだと想つとるよ』耕一は棄て鉢に言ひ切る

拈華微笑

◇地方美術人の搖籃X畫會來上旬開催、新緑に風薫る一入ならん

◇電氣・無盡、男女青年各總會を獨占して極めて明るい石城の春

◇切手賣上げの赤字で町村議選擧を當て込む平局

◇盜因の筆頭は生活難。衣食足つてゝゝは萬代不易の至言か?

◇風颺々。水温む

○……○

吸ひつける感情

えいさぶらう

日なたくさいあなたの感情は
春の陽を浴びた
うまひの心にしつくりだ
私はあなたと共に
伸びあがるんだ
春の陽は暖だ明るいのだ
二つの感情を洗ふのだ
ふみにじられた芽よ萌えておどれ
私達はもう洗禮が濟んだ
×
あゝあの雲は陽を覆うとする
冷い銀嶺をすべる風
何處かであなたの感情が
日のかげつた私の心を吸ひつけてゐる。

甘茶貰ひ

…(童謠詩)…

盛菊枝

甘茶貰ひの日永みち
甘茶の手桶さげて行く
げんげ畠の花のうへ
蝶もひら/\飛んでます
土橋渡れば寺の森
籔に椿の花咲いて
甘茶をくれるぢいさんの
頭の上で啼く雲雀。

新刊紹介

△綜合詩歌四月號(口繪寫眞版)武島、金子、本多常盤各大家の短冊四種(卷頭の歌)(史實に即せる新元寇歌を望む)陸軍少將竹内榮喜(萬葉集の修辭的研究)御歌所寄人武島羽衣(短歌)(奈良朝時代に於ける和歌と梵語)中島利一郎(源實朝の歌人としての一面)三島吉太郎(詩界時評)正富汪洋(正岡子規居士に就て)西原義任をはじめ歌、詩、童謠、俳句、川柳、漢詩を滿載、尚ほ應募略則を附す(一部三十五錢税一錢東京市豊島區長崎南町二ノ二一四九其社)

△ローマ字四月號(一部二十錢東京市麹町區丸の内三ノ一二帝劇事務所内ローマ字ひろめ會發行)

社會の今日

4月8日

△釋尊降誕(本朝紀元三七)△太田道灌江戸城を築く(長祿元)△借地借家法公布(大正一〇)

○

見透しの田舍料理屋甚靜か、桃咲く庭に番傘を干す　木下利玄

愚痴は如何に高聲なるも又如何に理由あるも決して役に立たず　エマーソン

講談 お蘭陀お蝶 (294)

渡邊默禪作　布施長春畫

『そりや如何の譯合かの拙者も武門の身、次第に依つては首を打つて渡さんものでないが、假にも最愛の娘又た三世の絲があるとやら申す門人、所以もなく命を奪揚るといふ譯には參らん先づ仔細を承まはらうではないか』

袴の裾をあげて詰寄つた

『さればでござりまする』

お蝶は沈着いたもの

『拙者も武門の身と被仰るからには、お士さまの名聞お家の面目と申すことはよう御存知の筈で』

『無論の儀ぢや』

『その大切なお名前に泥を塗り、お家に傷をつけました者なら可愛いお子さまでござりませうと、お目にかけてゐらつしやる秘藏弟子であらうと、脊に腹は替へられぬと申すたとへの通り!』容赦なく御成敗遊ばすのが昔からの武士の道かと存じまする』

千葉はいよ/\解らなくなつた

『ふむ、二人は何か家名をけがすやうな振舞でもいたしたか』

『オホヽ、何を被仰いますそれを御存知ないとは千葉先生と世間の人から敬はれてゐらつしやる貴君にもお似合なさらぬこと、當家さまは武家様方の手本鑑ともなるべき劍道指南の立派なお家柄些と目鼻をお利かせなされたが宜しうございませう』

『な、な、何と』

『燈台元暗しとやらでございますよ、オッホヽヽ』

[illegible]皮肉に毒吐かれて流石謹厚の君子もむつとした。優しげに動いてゐた眉がきり/\と揚ると、いふづつのやうな爛たる光がぱつとその瞳から躍つた

『默れ、匹婦!不肖ながら千葉周作、其方如き賤しい女に口汚なく嘲弄さる覺はない、不束者でこそあれ手汐にかけて躾をいたした娘光、家名を汚したなどとは以ての外なる言ひ分、馬場とてもその如く、師たる拙者の顔へ泥を塗るやうな左様な不埒を働くものかッ、察するところ何かの思ひひがみよりいたして此の千葉を怨み二人を讒訴ないたして家内に波風を起させ、意趣をはらさうといふ下心でがなあらう、いや奇怪な奴』

叱咤する聲は雷、うつはりの塵も飛ぶかのやう

『其方こそ、前日尋ね參つた砌門前の札へ泥を跳かけ此の千葉に對して恥辱を加へたではないか重ね/\の狼藉無禮、二言と申さば手見はせぬぞッ、えッ退り居らう!』

其の手はいつしか坐右の刀に懸つた、とんと突いたこじりの響もろとも、右の片膝は揚つて青疊へ二三寸ぢり/\と爪先がはしる

『不思議なことをお聞き申します。私が看板へ泥を蹴上げたなどゝは、夢にも覺のないこと大方お屋敷内に惡い狐でも棲んでゐてそれに誑されなすつたのでございませう。眉に唾でも塗つてよつくお調べなさ[illegible]せ。オホヽ、斬られるのが怖くつて、こんな難題を持込んで來られますかえ、さ、斬りたければ御勝手にすつとお殺んなさいましな、それこそ世間の大物笑ひ、お玉が池の先生はそのお刀の血の乾かぬうちに、すつかりと貂が剝げて了ひませう、オホヽ、お氣の毒さまねヽ!』

つるりと上着をはたかにして、騷ぐ色もなく徐かに前に居直つた

『却す/\も憎くい奴、むその息の根をッ』

千葉は勃然として肩衣を後に刎ねた、右手に握つた刀はあはや鯉口——

『や、こりや死裝束?』

『はい、覺悟の上でござります』

戸田阿彌陀尊入佛式

物故セル明雲堂吉田芳太郎先生ノ寄進ニ成ル尊像ノ鑄造ガ出來上リマシタ左記ノ順序ニヨリ入佛式ヲ擧行致シマス、御信仰ノ方ハ御參拜ヲ御願ヒ致シマス。

事項
一、日時　昭和八年四月九日午後一時
二、場所　石城郡大野村戸田阿彌陀堂境内

昭和八年四月六日
石城郡大野村大字戸田
戸田青年團

學生用腕時計特賣
◎品質保證付!
各種時計豐富取揃へました腕バンド付
◎一割引奉仕いたします。
金光堂時計店
平五丁目　電話一九五番

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先(マツサキ)ニ(松崎(マツサキ)ニ)
三九二(ミクニ)タクシーへ
(デンワ、ミクニ)

産科　婦人科　花柳病科
午前宅診　午後往診　入院應需
井阪醫院
平町田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

夜間診療
胃腸　梅毒
内科　十二指腸虫病　專門
淋病　皮膚病　婦人病　專門
松村胃腸性病科醫院
(平町南町電一〇一七番)

淋藥界の最高權威
無効返金(二日間服効なき時は叕藥引替に全部返金す)
岩りん房　別府淋藥
一週間…赤箱—金五圓　黒箱—金參圓
世界の名湯別府温泉で名高い。岩里家の家傳秘藥は男女血ウミ、コシケ、淋病消渇に奇積的効果あり、どんな頑固な痳疾でも短時日に根治が出來且つ再發することなく注射や他藥で治らぬ諸賢は最後の藥として迷はず……名藥別府淋藥の御服用に依り幸福を得られん事を希望致します。

別府皮膚藥　金三十錢　金五十錢
天下の名湯別府温泉のラヂウム含有の精に各病醫院及最高學府の處方劑集め大成せる皮膚病特効藥であります、たむし、いんきん、みつむし、なます、しらくも等其他皮膚病に卓効あり。
九州別府市鶴乃園　岩里天然堂
代理店　平町三丁目北裏通り　渡邊いと
(特約店募集)

江戸前
當店に於て自慢の
大蒲燒　割烹　壽司　開業以來
特に『都壽司』は江戸一流の職人を迎へて食通の皆様方に御賞讃を頂きお蔭様にて大繁昌をいたして居ります。
都壽司は魚榮と御思召して……
御ひゐき下さる様御願申上げます。
田町　魚榮　電話四二四番

御贈答に!記念品に!諸景品に!
漆器を!!!
專門の(共)は
誠勉強　親切第一　在貨豐富
ドコヨリモ、ヨイシナヲ、ドコヨリモヤスクウル、ヌリモノミセ
平町三丁目(元郵便局裏通り)
各國産漆器　專門卸小賣
(共)漆器店
店員募集　十三四才位、小店員　三十才位迄、外交員

内臓外科　整形外科　泌尿器科
醫學士　内木宗八
外科　産婦人科
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

平町田町
高久病院
(電話五三一番)
内科　外科　耳鼻咽喉科　レントゲン科　小兒科　花柳病科
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽濟
藥劑士　佐竹菊雄

恒例のX畫展覽會が 地方美術の大殿堂展開
新綠に風薫る來上旬と決定

磐中X會は回を重ぬる事三十餘、地方美術家の搖籃として目され會員中より美術學校（西洋畫科）13小川村大森義夫（關東廳囑託）14鹿島村坂本孝正、22四倉町松永隆、（同師範科）24錦村大平方（富山女師）27平町石川一郎（安積中）27平町金成勇夫（新潟縣村上高女）（同在學中西洋畫科）28湯本町富岡壑29小川村吉田富美（油繪科）33平町若松光一郎（師範科）33平町鈴木新夫等既に十名の優秀な作家を出し、而も在學生中縣代表として外國の展覽會に出陳したものもある程彼此東北の美術校として隱然たる礎地を築きつつ大に今後の躍進向上を期待されてゐるが今年も例年の通り新綠薫風の來月五日を期し恒例の展覽會を開催する事となり會員一同目下製作に精進を續けてゐると

櫻驕る植田町で 縣電氣協會總會
來廿日開催決定

本縣電氣協會總會は濱通り主催の下に來二十日午前十時から植田小學校に於て開催、勤續者表彰其他議事終了後みどりに於て懇親會を催す事となつたので目下地元植電が主として諸般の準備に忙殺されてゐるが來賓を併せ出席百數十名に上るべく恰も八幡公園の櫻滿開季とて同町近來の殷賑を豫想されてゐる

縣案の公會堂は 第四校講堂兼用
結局該案で實現か

平町の公會堂は目下町の失業者救濟事業として敗地の土盛工事中なるも現在の町財政から見て今後五萬圓の工費を捻出するは容易でなく當局者は之が實現に就て皆々協議中であるが昭和十一年度から同敗地附近に建設さるる第四小學校の講堂兼用とすれば双方の工費が半減されるので結局之の案に纏るらしい形勢にある

。。。。夏井組頭異動　夏井消防組頭庄司千代治氏は此程辭

無盡業總會

縣無盡協會第二回總會は昨六日午前十一時から湯本町公會堂に於て開催したが出席三十五名、伊藤商工課長の訓示後決算豫算を附議して業務發展に關する打合せをなし磐城の上水道配水池

任、後任は高木泰治氏と決定今七日平署から任命された

小堀新檢事
廿七歳の少壯學士

平檢事局次席に着任した小堀檢事は横濱の人で昭和五年帝大卒業後東京で一年三ヶ月試補を勤め千葉東京の豫備檢事たりし二十七才の少壯氣鋭の士で温和な調子で

上田檢事よりは一期下だつた、平は勿論東北は初めてである、景色の良い丹後澤附近に居を定め度い

と語つてゐた

。。。。磐中進學者　其後の分次の如し

昭和醫專―赤井村三十二回松本桂、慶大豫科―平町三十三回正木芳夫

縣下代表女性 惜春の平町に集る五百名
廿三日磐中の縣大會

縣下女子聯合青年團大會は二十三日午前九時から磐中校に於て開催、會務の報告會員意見發表、協議、講演知事告辭、視察談等あるが當日は知事夫人赤木光子、博士夫人大原りきの正副會長を始め會員五百名資來、赤木知事、末原學務部長、吉富敎育課長等三十名が臨席するので平及郡聯合女子青年團では協賛會を組織し會員に繪葉書、鰹節、味淋乾し等の記念品を贈呈すべく準備中である

三陸の罹災地から 義金募集の懇請
郡町村長會取纏めに斡旋

三陸地方震災義捐金募集の促進に關し今七日町村長郡支會へ宛て岩手縣知事石黑英彦、縣會議長佐々木保五郎、盛岡市長中村謙藏、町村長會長細川久各氏連署で左の依賴狀があつたので未澄附町村を督勵する事となつた

（前略）其後調査の進むに從ひ被害の程度は豫想外に甚しく人畜の死傷家屋の流失倒壞は申迄も無之漁場の破壞養殖場の全滅殊には沿岸一帶に於ける漁船、漁具の流失等慘禍枚擧に遑なく全滅せる部落すら多數有之狀態にて且罹災者中には目下皇軍の第一線に在つて熱河の掃匪に奮戰しつゝある將兵の家族も頗る多く洵に痛心に不堪次第に御座候加之罹災地方は今尚寒氣烈しく時々降雪を見感冒の流行急性肺炎の續出等眞に深慮すべきもの有之候、御承知の事とは存候へ共固々天恵薄く民度未進の本縣は昭和五年以來連年の不作凶作に加へて縣内全銀行の破綻に伴ふ金融梗塞に依り疲弊困憊の極に有之候折柄骨肉を奪はれ家を失ひ、生活の資を喪ひ茫然、唯天意の難きに怖えつゝある三萬罹災民をして安意生業に就かしめ復舊復興の大業を完成可致事眞に容易ならざるもの有之候、一に國家竝同胞各位の深厚なる御同情に依縋するの外途なき狀態に有之候（後略）

赤字で痛感する 選擧の有り難味
平局の切手五萬圓減

平郵便局管内昨年度中の切手賣上高は四十七萬五千百六十九圓六錢で代議士、縣會議員の選擧のあつた前年度と比較すると四萬九千二百十三圓十六錢の減である

磐城高女 大會準備
内外多忙を極む

磐城高女は來七月陸上競技並庭球大會場となるのでコートの地均らし砂場の手入れ等準備多忙を極め一方運動選手の養成に當るので永島部長は寧日なく奔走してゐるが十四日保原に於て開催される女子体育聯盟委員會に左の協議談話題を提出すると

（協議題）健康生徒及選手權保持者に對する表彰

（談話題）異狀發育生徒に對する特別矯正指導を正課以外の實施、公傷生徒に對する具體的慰問方法

體操科見學生徒取扱（体操科協議會）陸上競技順序採點法、三段跳踏切位置、庭球組合法の改善及採點法、役員各種陸上競技の審判は參加校職員之に當る但し庭球は主催校に一任する事（委員會）尙庭球審判は平倶其他地方の選手に依賴すると

一夜中二軒を襲ふ
四倉に物騷な怪賊出沒

四倉町新町字太夫坂料理店沖見亭事野木タケ方に今曉二時頃賊忍び入り臺所で酒肴を平らげた上寢室に入りオーバ洋服上衣等を竊取されたのと前後して同町新町鍛冶職鈴木茂次郎方に梯子を掛け二階窓口より忍び入り二重廻し、銘仙男物着物を竊取されたのを何れも翌朝發見四倉署に於て犯人嚴探中なりと

郡青年團 雄辯大會

郡青年團雄辯大會は九日午後一時から磐中に開催するが意見發表團員は内郷村荻重雄（滿洲國と移民者の覺悟）神谷村吉田治（守れ祖國日本を）である

忠魂祭委員
十日の分擔決定

十日平町松ヶ岡公園で催される忠魂祭典の委員分擔左の如く決定した

△總務―青沼鋒太郎、山崎濟三△受付（長）佐藤伊太郎、山野邊達卓、江尻幸平、渡邊佐七、岩立茂藏、增子富治、石坂一雄松本幸平△祭典式場（長）藤田榮助、吉田定正、遠藤心光、鈴木丑松、神長倉春造、佐藤淺次郎、木澤常松、高木喜枝、關内甚平、中野文語、三浦富美男△來賓（長）伊藤淺之助、四家粂治、驚淸昇、金成淺治、新妻盛、齋藤昌孝、下野十朗、大塚八郎、太田良一、鈴木三郎△遺族傷兵（長）赤津一、松本新治郎、松田賢雄、蛭田千代松、青木秀次、大谷要次郎、愛國婦人會幹事一同△劍道（長）小田部秀雄、藤井一、小林光盛、鈴木忠正　△銃劍術（長）四家粂治、吉田憲英麻原吉五郎、小松武勇、庄司政之△弓道（長）小田部秀雄、須藤鶴之助、廣木榮之助、望月辰藏、梅津松吉、大岡喜繁、山家謙之助、橋谷田千代壽△庶務會計（長）酒井寅之助小泉英次、松本充弘、高崎晴明、柏原光太郎、内田節太郎、古川清水、須藤鶴之助△救護（長）羽岡平三郎、清野キヨ、鷹崎千代

不心得の原因は 生活難が首位
竊盜に就て平署の悲しい統計

平署去月中の司法事務取扱件數は

種別	發生	檢擧	人員
竊盜	六五	八一	二〇
詐欺	七	二	六
失火	五	八	八
横領	五	五	三
傷害	四	四	一
其他	二二	三四	二六
合計	一〇八	一三四	六四

で昨年同期と大差なく依然竊盜が筆頭で之を原因別に見ると生活難、酒色、虚榮職業的、習癖、買食の順となつて居り手段は漸次巧妙となつて來た

橋本氏別宴
九日住吉屋で開催

高田師範に榮轉する事となつた橋本磐中校長の送別會は九日午後五時から住吉屋本店で開くが會費は二圓五十錢である

出鱈目で詐取し廻る
飯野村生れの若者檢擧

當時住所不定無職飯野村上高久片岡五生れ佐々木善三郎（一八）假名＝は去月三十一日午後八時頃平町四丁目飲食店松本萬吉方に至り福島モータの鈴木と稱して下宿する約束をなし現金五十錢と懷中電燈を詐取した外田町雜貨店須藤鶴之助其他十數件から出鱈目を竝べて金品を詐取し廻つて居た事發覺昨六日三丁目地内で露店を立見中其筋に取押へられた

磐中人國記 （六）
赤井嶽男記

第九回生の卷 L

◇海洋の人を見る

更に眼を轉じて海洋關係を見るなれば商船學校を出て日本郵船に入り神戸に本據を置て歐米航路の大船長を勤めて居る箕輪村高野の大榊武氏と水産講習所航海科の出身で魚族群る千葉縣安房郡白濱で水産業を營んでゐる小名濱町の渡邊（舊姓野崎）知之氏とがある

前者は痔ゲツの名湯高野鑛泉の神事を預る神官の家に生れた英才、八重の潮路遙けく鵬程萬里の航海に從事していやちこな伊勢の神風に恵まるる名キャップテン。後者は小名濱の大升主『酢屋の才ちやん』で通つた先きの漁業組合長故野崎才助氏の令弟である

◇文墨の山田盤歷氏

十有餘年の久しきに亘つて福島民報平支局長たりし山田盤歷氏は既に明治の初年に於て二丁目横町の病院を主宰したと云ふ地方杏林の大先輩山田忠夫醫師の三男坊、即ち高等官三等の古參檢事として昨今川越區に光つて居る山田春渓法學士の舍弟で畜佳し書良し文墨方面適くとして可ならざる無き豐富な親譲りの天分を有してゐる、昨今些か新聞界の匆忙喧擾より遁れ移植箆や書籍を友として徐ろに乘ずべき雲霧の臻るを靜觀の形に在る

◇終篇『當時の空氣』

山茶花の宿も聊かダレ氣味である。そろ〳〵出て來た退屈の大欠伸を木の頭に之の邊で次ぎ第十回の卷に入る事にするが最後に、當時に於ける校内外の空氣を窺知する一端として之の前後に於て行はれたる職員異動の跡を索ねて見やう

◇職員異動の概況

即ち校長以下一擧に數教諭の轉免を見た磐中今次の一大ストームの如く突發的のものではないが、當時の記錄を辿ると

――昨年より本年に亘りて我が校には職員の更迭繁く我等は一喜一憂を以て送迎したり、五十年間斯學の研究に躬を委ね特に國文法と漢文語釋とに精通して一見識を有せられし松岡先生は御在勤殆ど十二年その嚴格なる御性格と御懇篤なる御敎授は我校の光榮なりしが此程御老体の故を以て辭去せらる、實に痛惜に堪へざるなり、目下東京府下三河島に退隱して老を養はれ給ふ由、幸に御健全ならん事を。云々

0

斯くして磐中のピカ一松岡老教諭は退職した、今七日磐中事務室の好意によつて調べ上げた同敎諭の退職年月は明治四十二年十二月二十七日、第九回卒業式に先つ事三ヶ月、今からざつと四分の一世紀前の事であ

（此項つゞく）

第二校 新級長

正副級長は次の如く決定した

三年1千葉怜子、渡邊なか子2柴田雛苦子、矢田部富子3大嶺悦子、桑原貞子4佐藤ミチ、友部宮子　四年1梅津吉子、關原芳枝2馬目靜、木田秀子3原つね子、酒井良子4淺野敬子、吉田貞子　五年1根本ツネ子、鳥海珠2梶原フミ、關[illegible]子3端山多賀子、廣澤トキ　六年1近藤シヅヱ、小野光子2石山小夜子、桐谷ツネ3正木千鶴子、菅野文子　高一1鈴木ひで、白土美子2小野文子、廣澤好枝3根本房子、伊藤ハルヨ　高二1山崎ヒロ渡邊泰子2橘トヨ、島田延子3木田ミツル、鈴木芳子

鐵道員異動

勿來　榊原桝三郎
綴驛助役　助川　永島東之助
勿來同　平庶　佐々木松助
驛小荷物　同　東條祐英
同　同　中條實
同驛務　平運　大垣喜六
下野宮驛長　土浦助　小田民哉
平運

諸橋小田 兩氏へ感謝狀

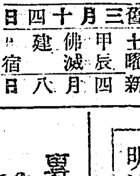
諸橋久太郎、小田吉次兩氏は滿洲軍人慰問金中から五百八十四圓を町村長支會へ寄附した廉に依り今七日同會から感謝狀を授與された

。。。。萩原縣議寄附　萩原義雄氏は日本赤十字社へ金二百圓を寄附し今七日役場から褒狀を傳達された

度量衡記念日行事協議　平町では十一日の度量衡記念行事に關し九日午後一時から町會議事堂で關係者の協議會を開く

。。。。農事會合一束　△七日平農會で種籾鹽水選指導△九日夏井農會で中堅講習同窓會支部發會式、高久農會で苗代指導講演會△十三日草野農會で堆肥實地指導

新四月八日　土曜
舊三月十四日　甲辰　佛滅　建　宿



諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神 鑑 館

▲一白の人　迷ひに難まされ過まんとして鈍り易き日▲二黑の人　表面吉に見ゆれども內實は苦みある日なり▲三碧の人　人の世話事にて失敗し易き日交際口入注意▲四綠の人　輕卒なる言動を避け冷靜にかまへて働くべし▲五黄の人　物事澁滯勝ち且つ手違ひの起り易き日注意▲六白の人　從來關はざりし事も追々と順調に運ばる日▲七赤の人　上を敬び下をあはれむ心掛が第一諸事好都合▲八白の人　初めは吉くして終りの全からざる注意の日▲九紫の人　周圍の事情を能く考へ堅實に進まれば平

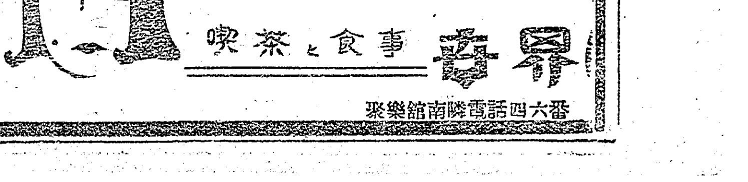
平町慶弔錄

△出生
鎌田町五二小林初太郎二女洛子
三丁目二九小野隣太郎三女マサ子

△婚姻
四丁目六關內仁平（二六）小名濱町定西五七堀越シン（二三）

廣告

安齋外科醫院　平町田町　電四七五番



外科全般　醫學博士　渡部義夫
內科 小兒科　女醫　渡部きい
平町田町大通り（電話二七七）
渡部外科（入院應需）

生徒募集
和洋裁縫科ミシン專門敎授
◎普通科（二ケ月卒）
◎高等科（三ケ月卒）
◎刺繡科（二ケ月卒）
ミシン貸與　入學隨時（規則書呈ス）
◎ミシン洋裁の御研究には過去十八ヶ年の經歷ある技術本意にして內容充實なる當女學院を御指定下さい。
◎當女學院は誇大なる宣傳を省き實質本位にして現代家庭の主婦たる必要な裁縫を悉く敎授す。特に皆樣の便宜を計りシンガーミシン新品又は中古品の販賣も致します御希望の方にカタログを差上げます。
平町田町　シンガー裁縫女學院

お醤油は……ヤマフル
味噌　醬油　たひら正宗　鰹節　食料品
鹽屋　山崎合名會社　福島縣平町　電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

專門　一般內科
內科ハ何デモ診療致シマス　呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五（電話一八一番）
川井內科診療所
醫學士　川井重之
女醫　川井安子